

# 新型コロナウイルス感染症に対する可視総合光線療法

## (その1)

一般財団法人 光線研究所  
所長 医学博士 黒田 一明

100年以上前から赤道から離れるほど高血圧、糖尿病、肥満、感染症、ガン（乳ガン、大腸ガン、前立腺ガンなど）に罹患しやすくなることが指摘されています。これは赤道から離れるほど太陽光中の紫外線が減り、身体に受ける日照量不足で人体皮膚で産生されるビタミンDが減りビタミンD欠乏、不足になることが原因の一つとされています。これは『ビタミンD仮説』と呼ばれています。

### ■新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

COVID-19とは、昨年末に発生した新型コロナウイルス感染症に対して、世界保健機関（WHO）が命名した名称です。

2020年に行われた世界の国々におけるCOVID-19の死亡率と緯度との関連を調査した英国の研究があります。これによると、北緯35度より緯度が低い国々で死亡率は比較的低く、北緯35度より高い国々で死亡率が高いことが分かりました。北緯35度より緯度が高い国々では、日照量の不足でビタミンD欠乏や不足の割合が増加し、とくに冬期ではその影響は大きいと思われる。その結果、ビタミンD欠乏や不足によりCOVID-19の死亡率が増加することになります。

ビタミンD欠乏や不足は高血圧、糖尿病、肥満、ガンと関連することが示されていますが、これらの疾患はすべてCOVID-19を重症化する危険因子といえます。

同じ英国からの研究（2020年）では、世界20カ国の血中ビタミンD濃度とCOVID-19患者の死亡率と死亡数の関連を検討しています。その結果は血中ビタミンD濃度が低いほど死亡率、死亡数が増加することが示されています。

スペインからの研究（2020年）では、COVID-19患者にビタミンD製剤を投与すると非投与群ではICU入室者が50%であったが、投与群では2%と少なかったと報告されています。このことからビタミンDの投与により、感染が重症化せずICUの必要がないことが示されています。

### ■ビタミンDとウイルス感染症

ビタミンDには、以前よりインフルエンザウイルスなど感染症を予防する働きがあると指摘されています。

20上工年の英国の研究では、インフルエンザウイルスなど呼吸器感染症の罹患率は血中ビタミンD濃度が高くなるほど低下し、血中濃度が40ng/ml以上では10ng/ml未満の人に比べ約半減することが示されています。この事実でビタミンDには免疫調節作用があるといえます。

ビタミンDの免疫作用はカテリシジン、デフェンシンなど自然免疫と言われる抗菌ペプチド類を増加させて抗菌作用を発揮します。さらにビタミンDの免疫作用は、抗炎症作用で炎症性サイトカインを減らし、抗炎症サイトカインを増加させ炎症を鎮めます。COVID-19ではサイトカインが激しく分泌されるサイトカインストームの状態になると重症になり急性呼吸窮迫症候群という病態に陥り酸素吸入、人工呼吸器が必要になります。

イランの研究では血中ビタミンD濃度が30ng/ml未満の患者は重症例が多い、意識が低下しやすい、低酸素血症が多い、炎症反応が強いことなどが報告されています。

以上、COVID-19感染症（新型コロナウイルス感染症）の研究から多くの国々でビタミンD不足の状態では感染症の症状が悪化することが確認されました。インフルエンザウイルス感染症やCOVID-19など呼吸器感染症を予防するには、ビタミンD欠乏や不足を予防することが重要な対策となります。

## ■可視総合光線療法

自粛生活で外出が減り太陽光を浴びることが少なくなり、日光浴不足でビタミンD不足に陥りやすくなります。外出が少なくなり身体を動かすことが減ると筋肉が減りフレイル（虚弱）に陥ります。フレイルになると食欲の低下、気力の低下、不眠、うつ、関節痛、腰痛など様々な症状がみられるようになります。このような悪循環を防ぐためには可視総合光線療法の光、熱エネルギーの補給を行うことが有用です。太陽光線と同種の連続スペクトルを身体に照射する本光線療法は屋内で行えるため外出を控え気味な現在、健康維持に有効な療法といえます。本光線療法で血行改善、体温上昇とともにビタミンD産生を促し免疫力、自然回復力を高めて感染症を予防すること、基礎疾患を管理することが大切です。自宅で光線療法を行える方は積極的に利用することをお勧めします。

日常は散歩など身体を動かしながら1日15～30分の日光浴の習慣もよいでしょう。食物のビタミンDは脂質の多い魚、栄養強化した乳製品、シリアル、牛レバー、チーズ、卵黄などにも含まれています。

### 【新型コロナウイルスに対する可視総合光線療法】

治療用カーボン：

3000-5000番、5002-5002番

1000-4000番

照射部位は、

両足裏部⑦：集光器使用せず

両足首部①：集光器使用せず

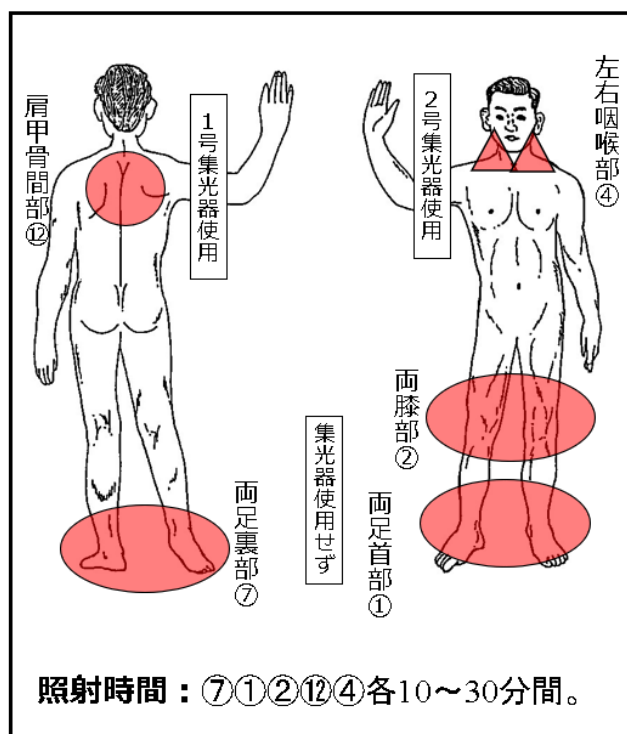
両膝部②：集光器使用せず

左右咽喉部④：2号集光器使用

肩胛骨間部⑫：1号集光器使用

照射時間は、各10分～30分間

忙しい場合は⑦の照射だけでも毎日続けて下さい。



## 新型コロナウイルスに対する可視総合光線の効果

- (1) からだを温め、血行を良くすることで、体力・免疫力強化
- (2) 鼻・のどなどの粘膜の働きを強化
- (3) ビタミンDの産生

### ビタミンDの作用

- ・細菌やウイルス感染を抑制する「カテリジン」を産生。
- ・気道粘膜に粘膜保護作用のある「 $\beta$ -デフェンシン」を産生。



◎新型コロナウイルスの感染予防

◎感染時の重症化予防